大谷の祭祀族菅原家を護っていた菱形祭祀線

●山形県朝日町の大谷地区は、菅原道真の左遷時に側室一統が移り住んだと伝わっている。前回の大谷天満宮を調べている時に、峯壇天満宮の位置のずれが気になった。もう少し北東ならきれいな菱形になったはず。だいぶ前だが、大谷の天満宮を訪ねる見学会に参加した時に峯壇天満宮の別当の方から「以前は他の場所にあったらしい」と聞いたことを思い出した。それなら調べてみる価値はある。古い祭祀線も見えるかもしれない。さっそくコンパス地図ソフトを少しずつずらしながら正菱形になる場所を見つけ出した。

■大谷天満宮跡　→→ 513m →→ 峯壇天満宮跡　→→ 513m →→ 愛宕神社跡
■峯壇天満宮跡　→→ 513m →→ 大谷天満宮跡　→→ 513m →→ 白山神社跡
■大谷天満宮跡　→→ 513m →→ 愛宕神社跡 →→ 513m →→ 峯壇天満宮跡
■大谷天満宮跡　→→ 513m →→ 白山神社跡 →→ 513m →→ 愛宕神社跡

大谷天満宮跡地

白山神社跡地

愛宕神社跡地

●全体が少し東に傾いているが、きれいな左右対称の菱形が浮かび上がってきた。四つの二等辺三角形が含まれる。残念ながらすべて跡地となっている。現在はこの菱形結界は存在しない。

■使用地図サイト

「Google Maps に好きな半径の円を描けます」

https://www.cloudremix.net/Map-Circle/

※地図上に円の半径を記入してマーカーをクリックすると円が描かれる
円の半径距離は別のグーグルマップ（マイマップ）のライン機能を使って
おおよそを割り出しておきます。

■峯壇天満宮

創建や由来についての資料もなく伝承もされていないが、お堂に納められている３枚の祈願札によれば、祭主は白山寺宝印宥天、祭施主は白田九兵衛延信と記されている。白山神社との関係があるものと推察される。昔は大きな鳥居があったといわれ、それに懸けてあったのだろう、立派な彫刻の額がお堂に納められている。
西村山郡朝日町大谷

■愛宕神社跡

御朱印社、6 石 1 斗、社中 4495 坪　本社拝殿共 17 坪　お玉屋 1 坪　稲荷社 1 坪　十二神社 4 坪、通夜所 6 坪、鳥居 明 9 尺 神主屋敷 175 坪　（文政 7 年（1824）大谷村明細書上帖より）
西村山郡朝日町大谷

■白山神社

祭神　　菊理姫命　伊邪那岐命　伊邪那美命　与茂津言解之男命
境内社　稲荷社　　末社　日月社（船渡）
例祭　　七月十七日

大谷の白山神社は承和七年（八四〇）、加賀の国（石川県）の白山大権現より勧請し、天喜年中（一〇五三～一〇五七）に源頼義が武運長久を祈願したと伝わる。昔からいくさの神として領主の崇敬厚く、特に寒河江の大江氏や山形城主の最上氏より十九石四斗余の社領を寄進され、さらに慶安二年（一六四九）徳川三代将軍家光より、石高同じく、朱印状（徳川将軍が朱印を押して発行した公文書）をもって安堵されたのである。

宝永四年（一七〇七）近郷九か村（大谷、大暮山、川通、栗木沢、船渡、左中、粧坂、中沢、富沢）の総鎮守として、各村々から寄進を受け、白山神社を再建した記録が残っている。

江戸時代、白山神社の西側朱印地に寺を建て白山寺と称し、真言宗寒河江惣持寺の末寺となったが、天保時代（一八三〇～一八四三）に廃寺となり、跡地は畑になったといわれている。この場所に明治十二年（一八七九）大谷小学校が初めて建設されたのである。

明治七年官令により村内の御朱印社であった天満宮、八幡神社、愛宕神社、北野天神社、若宮八幡神社、二渡宮、日光神社を白山神社に合祀。

もとの白山神社は、旧大谷小学校の東側にあり、境内は広く、モミの木や杉、かえで、桜などの大木が茂り、千百年余の間、氏神として親しまれてきたのであった。しかし、終戦後、昭和二十一年（一九四六）五月、進駐軍（ＧＨＱ）より、大谷小学校と隣接する白山神社を教育施設より切り離すよう命令され、止むなく社殿を解体、恩賜郷倉（非常時の米倉）に一時保管。昭和二十五年（一九五〇）八月三十日、現在地に茅葺き屋根を銅板葺に変え昔のままの立派な社殿を再建したのである。当日深夜、松明の先導で別当南蔵院（小野家）より新殿に遷宮したと伝えられている。

跡地には、新制の大谷中学校が建設され、今も残るヒバの木は、白山神社本殿跡に植えられた記念樹である。
西村山郡朝日町大谷 738-1

■大谷天満宮（西野天神）跡

石高　24 石 6 斗 4 升　天満宮・熊野宮

境内 2509 坪、本社 3.5× 6 間、拝殿 2 .5.間、末社祭神 9 座（何れも 1 間 4 面/風神宮、雷神宮、火雷新宮、十六万八千眷属宮、大黒明神社、稲荷社、荒神新山権現、宮主社）、神楽殿 9 尺四方、仁王門 2×3.5 間、花表 9 尺　神主/白田下記　神主屋敷 2900 坪、お玉屋 1 間 4 面、行事殿 2.5 間 4 面、書院 3.5×7 間、居宅 6×17 間、門 9 尺×3 間　（文政 7 年（1824）大谷村明細書上帖より）

※文久 3 年 3 月晦日（1863）仁王門、境内社一つを残し全焼。再建不能。白山神社に合祀。後年仁王門は永林寺に移転。境内社は大江町柳川の熊野神社本殿に使用。

●次に、本当にここに峯壇天満宮があったか裏付けを得るために、この位置でどれだけ他の神社仏閣と繋がる祭祀線があるかを探してみた。すると…

■高木天満宮　→→ 377m →→ 峯壇天満宮跡 →→ 377m →→ 白山神社跡

■金輪寺跡　→→ 1.110km →→ 峯壇天満宮跡 →→ 1.110km →→ 大圓寺跡

■北野天満宮　→→ 1.206km →→ 平圓寺跡 →→ 1.206km →→峯壇天満宮跡

●まずは村内から。見事に「大谷四天神」全てとつながった。大谷は 200 戸ほどの小さな集落なのに天神様が 4 ヶ所も祀られているのだ。このような村がほかにあるだろうか。やはり菅原道真の子孫たちが移り住んだ地と思わざるをえない。そして、前回見つけ出せた朝日嶽信仰三十三坊の先達を務めていた金輪寺・大圓寺・平圓寺（800～中世）の跡地とも見事につながった。

■金輪寺について 朝日町史「朝日岳信仰」

川西町上小松にある真言宗大円寺に『朝日嶽縁起』は朝日岳信仰の内容が文章化されている。朝日嶽三所権現の縁起をのべ、三社が大富・女躰・子守の各権現で、本地仏はそれぞれ弁才天・大日如来・正観音であると

する。文末の古老の伝承はともかく、弘仁年間（810～824）に教旻という僧侶が、朝日山麓の大谷に来往して、朝日岳金輪寺を建立し、周辺には朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落が成立したという記録は検討されなければならない。

この縁起を書いた行賢は、大円寺の世代記によると、中興開基から数えて十四代に当たり、永禄二年（1559）12 月に没したと記されている。同寺にある他の記録によると、先祖は大谷の金輪寺住僧で、朝日岳三社権現の別当職を勤めていた。ところが永正年中（1504～21）に金輪寺が坊舎も含めて消失し、再建居住が困難のため、天文年中（1532～55）行賢が上小松村の亀森天神別当の院跡へ移ったという。

朝日岳権現の祭礼は、古くは 7・8 月に行なっていたが、麓大谷の居住を離れたため例年の八月はできなくなり、10 年に一度の登山を行い、三社権現の祭礼は八月一日から七日まで亀森山の社中で勤仕している旨を記している。

この文書には「朝日嶽三社大富・女躰・子守権現、従往古堂社無之霊地ニ候」と書いて、別当寺金輪寺はあるものの朝日岳三社は、社殿を持たなかったとしている。

大谷の地が問題になる。朝日町の大谷と考えたいが、多少の問題はあるだろう。現在の白鷹町・長井市・小国町・飯豊町・川西町に大谷の地名を探してみたが、小字にも見当たらないのである。永正年間に消失したと伝える金輪寺と朝日三十坊とされる朝日岳信仰のひとつが大谷であったと考え、もとの大谷集落跡も含めて今後の検討課題としたい。

-大円寺の観音経裏面の書き込み-
朝日先達　坊中　本坊　金輪寺　大圓寺　平圓寺
朝日岳金輪寺のほか、大円寺・平円寺の 2 ヶ寺があり、それぞれが先達の坊を支配して一つの宗教集落を形づくっていたように思われる。
※詳しくは本サイト「朝日嶽信仰 大谷金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこ?」をご覧ください。

■北野天満宮　詳細不明　西村山郡朝日町大谷

■高木天満宮　詳細不明　西村山郡朝日町大谷

●そして村外は…

■日月神社　→→ 1.728km →→ 峯壇天満宮跡 →→ 1.728km →→ 稲荷大明神社
■三瀧山観音寺　→→ 513m →→ 峯壇天満宮跡 →→ 513m →→ 厳島神社
■　　〃　　→→ 513m →→ 福寿院

■日月神社

今から千年ほどさかのぼる承和七年（840)、田原家屋敷内での出来事である。天にわかに鳴動し、あたかも雷電（いなづま）のような響きをなし、四方八方に光を放ち、燦然と輝いた太陽と月のような二つの火の玉が飛来してきた。みんながいうには、白山姫とその姫を乗せてきた老翁の化身だとか。そんなことがあってから、田原家ではこの聖地に日月神社を建て手厚く祀ってきた。日月神社と深い因縁がある大谷の白山神社も承和七年（840)、加賀の国白山権現から分神したと伝えられていて、その末社として、日月神社を創建したといわれている。一乗院田原家は代々日月神社の別当職をつとめ。系図上では現当主で二十二代にあたる。江戸時代には大谷の南蔵院と共に白山神社の社人として、十九石余の御朱印地を持つ格式高い家柄であった。現在の社殿は元文三年（1738）に再建、祭日は旧暦三月十日となっている。　　（『大谷郷』より抜粋）

●地元の人に聞いて行ってみたが残念ながら社殿は崩れ落ちて見る影もなかった。

■真中 稲荷大明神社

創建不詳だが、そばの昌城院に伝わる起源などから推察すると、今から 400 年ほど前だろう。心鏡（しんけい）上人は、断崖頂上の明神と稲荷明神の間に黄金の橋が架かり明神が仲良く遊んでいる神秘的光景を見て、「この地こそとどまるべき」と決めたと伝わります。境内に江戸大火の火を消すために水をかけたと伝わる“男石・女石”もあります。心鏡上人は、大井沢大日寺中興の祖と謳われた道智上人の弟。文禄三年（1594）開創。本尊/地蔵菩薩　真言宗智山派　※『大谷郷』より抜粋

■東日山 昌城院

今から四百余年前、心鏡（しんけい）上人は、真中村の明神稲荷と用のはげ（明神断崖）の頂上にある明神稲荷が、黄金の橋をかけ仲良く遊んでいる神秘的な光景に遭遇したのである。その現象を目の当たりにした上人はこの地こそ自分のとどまる最良の地であると心に決め、左中村の明神稲荷近くの草庵を宿として、付近一帯の布教に勤めたと語り継がれている。境内に江戸大火の火を消すために水をかけたと伝わる“男石・女石”がある。心鏡上人は、大井沢大日寺中興の祖と謳われた道智上人の弟。

文禄三年（1594）開創。本尊/地蔵菩薩　真言宗智山派　　※『大谷郷』より抜粋

■三瀧山観音寺

たび重なる災害で一切を失い由緒沿革については明らかではありませんが、中世時代の創建ではないかといわれています。真言宗智山派　　本尊は慈覚大師作の地蔵菩薩と伝わる。　※『大谷郷』より抜粋

西村山郡朝日町川通

■厳島神社（最上川河畔最大の絶壁　明神断崖の頂上）

旧三郷穴山村社 厳島神社（旧弁財堂）祭神/市杵嶋姫命
由緒/創立年代詳かならず。 元用村一村の産土神にして、大永二年（1522）社僧徳昌寺 領山なる者社殿再建当時辨財尊天と稱し、天保十四年（1843）稲荷大明神を合祀し、明治の始め厳島神社と改稱す。（西郡神社史より抜粋）
「戦後頃までは竜穴があって生玉子を供えてお祀りしていたんだ」談 /斉藤高治さん
竜神の絵馬が三つ奉納されている。神社からは大朝日岳を眺望できる。

（あさひまちエコミュージアム HP より抜粋）

■延命山 福寿院

ご本尊は弘法大師が作ったといわれる延命地蔵尊で、真濟上人がここに一寺を建立し延命山地福寺遮那院としたと伝わります。真濟上人は弘法大師空海の高弟で、空海が真言宗を開いた京都高雄の神護寺の二世であり、真言宗ではじめて僧正という高い位についた人です。

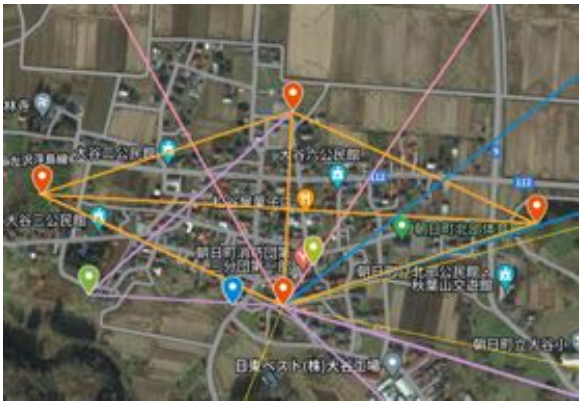
正徳元年（1711）春、井戸を掘った時に、土中から古仏の地蔵菩薩が現れたので本堂に安置し本尊物として祭りました。その際に遮那院を福寿院に改めたといわれています。

五百川三十三観音 31 番札所（聖観音）　朝日町中沢 585-1

（あさひまちエコミュージアム HP より抜粋）

●日月神社の火の玉伝説、稲荷神社の金の橋伝説、厳島神社の白竜、そして福寿院には弘法大師作の地蔵像、三瀧山観音寺には慈覚大師作の地蔵菩薩と、興味をそそられる話ばかり。峯壇天満宮跡の祭祀線は、探せばもっとあると思われるがこれだけ見つかれば、この場所が跡地であることは充分納得できる。
祭祀族の拠点ゆえの菱形結界に護られていた土地といえるだろう。

●さて、一つ気になることがあった。大谷のど真ん中と言える菱形の結界の真ん中にはなにがあるのか?
四つの神気が交差するところである。地図をズームしてみた。すると…



●もしかして大きな池!　15m もあるようだ。もしかしたら水神を祀っているのでは…
毎週のように通った現地調査の折に、心ときめかせながら訪ねてみた。しかし、立派な古い屋敷は空き家。失敬して板塀の間から覗かせていただいた。すると、草で覆われてよく見えなかったが、やはり大きな池だった。神社はないがなにやら石の柱も立っていた。さっそく聞き込みをしてみると、なんと小さな神社が祀られていたとのこと! おそらく稲荷様らしい。稲魂神は、近頃は瀬織津姫という考え方があるので、大谷の中心に池が作られて出雲系の水神が祀られていたと考えたい。浮島の大沼も稲荷神社である。ここの方は、仙台市に移り住んだらしいので、ぜひ話を伺いたいと思っている。

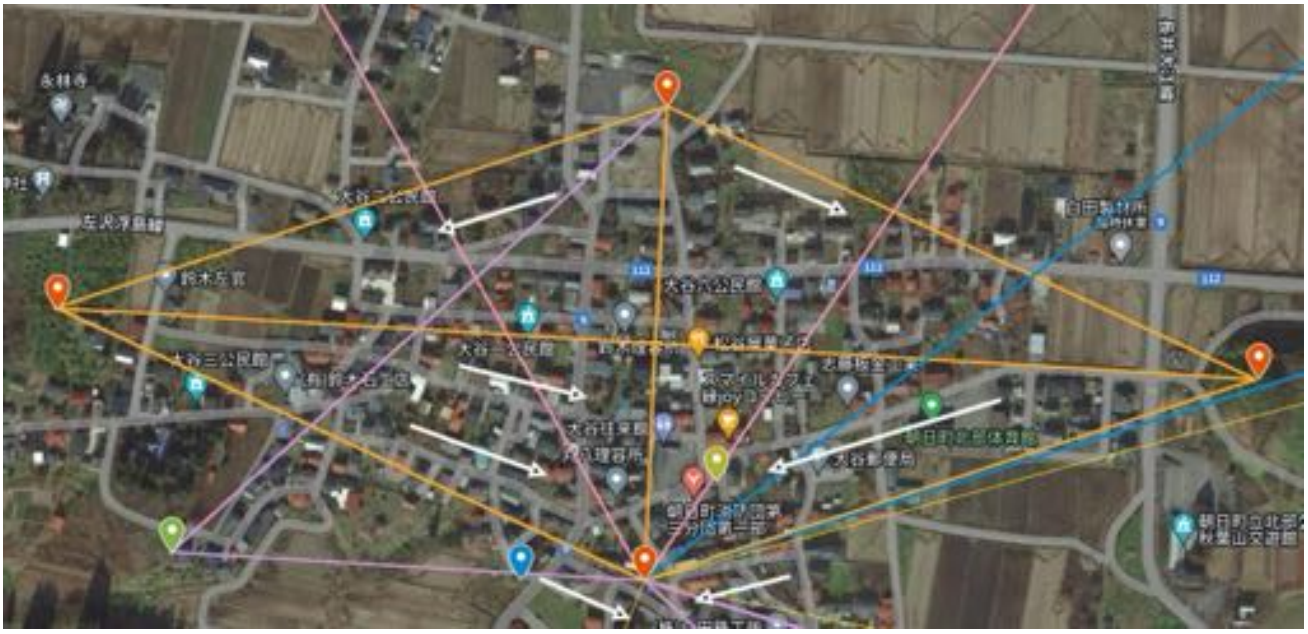
●そして、もう一つ調べなければならないことがあった。現在の峯壇天満宮は機能しているのだろうか? きっと適当な移動ではなかったはず。さっそくコンパスを広げてみた。すると…

■峯壇天満宮　→→ 508m →→ 大谷天満宮跡　→→ 508m →→ 白山神社跡
■平圓寺跡（薬師堂）　→→ 1.110km →→ 峯壇天満宮 →→ 1.110km →→ 秋葉神社跡（山頂）
■金輪寺跡　→→ 1.154km →→ 峯壇天満宮 →→ 1.154km →→ 大圓寺跡
■加茂神社　→→ 2.261km →→ 峯壇天満宮 →→ 2.261km →→ 厳島神社
■昌城院　→→ 1.705km →→ 峯壇天満宮 →→ 1.705km →→ 日月神社

●主要な社寺ときちんと繋がっていた。お見事である。朝日岳信仰の坊の金輪寺・大圓寺・平圓寺とも繋がっているので、現在の場所に移されたのは金輪寺が消失した永正年中（1504～21）以前と言える。
ただ、どうして峯壇天満宮を現在地に移したのだろう。

●最後に新旧二つの場所の祭祀線を重ねてみた。近距離の神社に繋ぎ直している中沢の福寿院→加茂神社、真中の稲荷神社→昌城院が気になる。きっと、どちらもこの時に創建したのではないだろうか。

●もう一つ気づいたことがある。大谷の町並みである。どうして京都のように四角の碁盤の目になっていないのか?ということについて。地図をよくみていたらわかった。



●白線をつけてみたが、道路や家並みが菱形の辺と並行になっている。(県道112号線は新しく作った道)家並みがはみ出ている所は、きっと近頃になって新しく住まわれたのだと思う。移り住んできた菅原一族をこの菱形結界の中に住まわせて護っていたのだろう。

●見つけ出した峯壇天満宮跡地を訪ねてみた。鈴木清助家という大庄屋の大きな屋敷だった。鈴木家では江戸時代に秋葉神社を秋葉山山頂に建てている。青麻や絹を販売する大商人でもあったようで大きな蔵が見事だった。残念ながらこちらも空き家となっていたので、失敬して板塀から覗かせていただいた。すると古そうな伽羅の木が一段高くなった場所に植えてあった。そして、軒下にはなにやら宝珠型の石などが無造作に置いてあった。石灯籠あるいは宝筐塔だろうか。もしかしたら伽羅の木の所にこの石塔も建てられていて元の峯壇天満宮本殿跡の印にしていたのではないだろうか。

●追記　調べていて驚いた。菅原道真の御廟の大生郷天満宮には、菅原道真の墓所を表現した「御廟天神画」が所蔵されている。さらに鈴木家を調べてわかったが、京都の北野天満宮に大きな石灯籠を２基も奉納している。白田（旧菅原）家ではないが天神を厚く信仰されていたようだ。これはやはり、峯壇天満宮跡を残すための石碑だったのではないだろうか。廃棄されないことを願う。

■御廟天神画（大生郷天満宮所蔵・常総市指定文化財）

菅原道真の墓所を表現したもので、古くから「御廟天神画」と称されている。宝珠(ほうじゅ)を中央に描き、左右上部に梅と松を配している。宝珠は上部に淡い朱が混じり、蓮弁の上に置かれ、松は鮮やかな群青色(ぐんじょういろ)を、梅は可憐な花と枝を覗かせている。

宝珠舎利塔(ほうじゅしゃりとう)は、本来、仏舎利(ぶっしゃり)を安置する骨塔をさすが、ここでは聖者

道真の遺霊を仏舎利にみたて供養するという御霊信仰に根ざした構図を描いている。
制作年代は、宝珠の形態や画中に竹が描かれないなどの古式の様相が看られることなどから、室町時代のころと思われる。縦 43.3 センチメートル、横 35.5 センチメートル。

●単純に鈴木家が屋敷を広げるために峯壇天満宮を移したのかと思ったが、鈴木家の二代目当主が秋葉山頂に秋葉神社を創建したのが延享 4 年（1747）なので、峯壇天満宮を移したのが 500 年以上前とすれば、鈴木家はまだなかったと思われる。時は戦国時代、大谷で何が起こっていたのだろう。

●最後にもう一つ大切なことに気づいた。峯壇天満宮跡のこの曲線。（写真左）
金輪寺（写真中央）や大圓寺（写真右）と同じではないか。

ということは…　見えてきた!

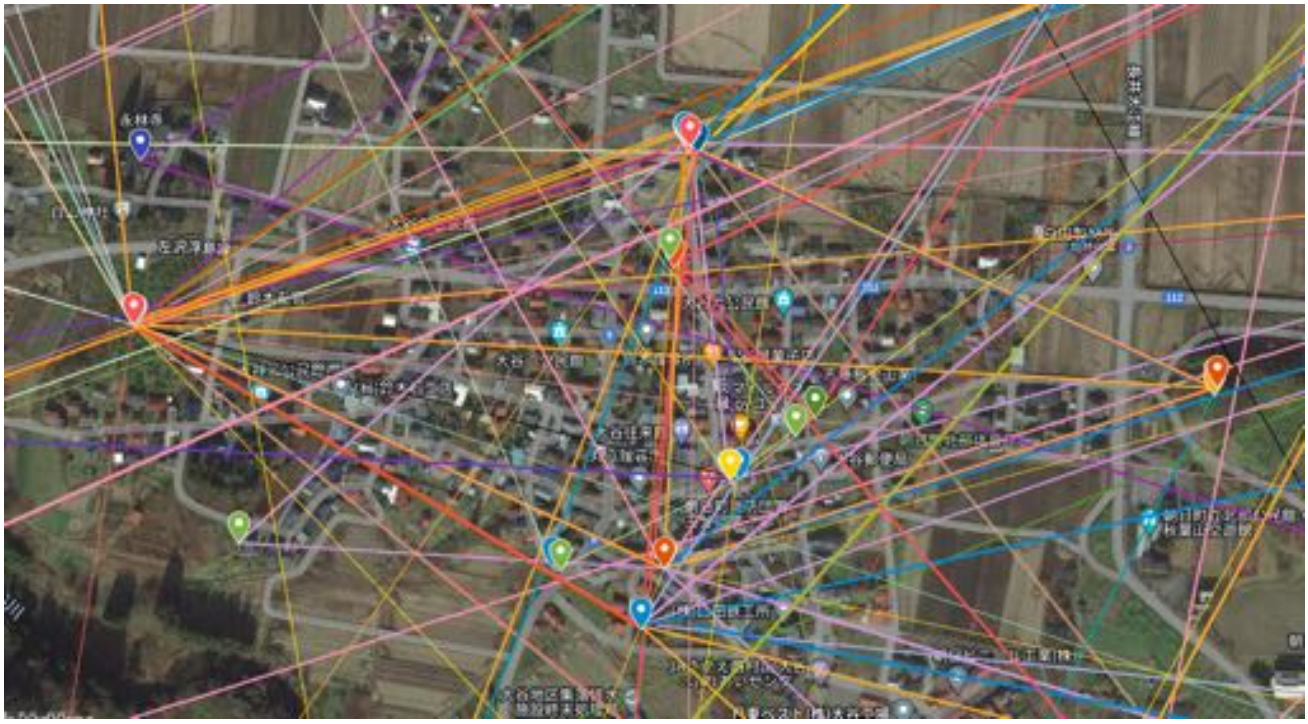
こんな感じではないだろうか?

●現在の峯壇天満宮には、大きくてかっこいい掲額が保管されている。今の小さな社の境内ではこんな大きな掲額を必要とする鳥居は建てられない。ということは 500 年以上前の元の場所で使われたものではないか。

●ついに峯壇天満宮の元の場所や参道まで見つけることができた。なんだか道真さんがインスピレーションを送ってくれたように感じる。はたしてここで祭祀族の菅原家は何をしていたのか。近頃、リークし始めた本当の歴史とリンクしているのだろう。そのことについては、頭の中で整理がついたら書かせていただこうと思う。今はこんな事実が、大朝日岳・大沼そして大谷と周辺地域にあったことを理解しておいていただきたい。

　空き家になった鈴木家には売地を伝える看板が立っていた。菅原家直系の白田家本家は戦後に村を出ているらしい。白山神社の別当の南蔵院も空き家。菱形結界の中心地の菊池家も空き家。日月神社別当家も空き家で神社は屋根が落ちて朽ちていた。祭祀線の多さに浮かれてしまっていたが、時代の一役割を担っていた大谷集落の歴史が消えていく様を見せつけられた気がする。そんな折に、この大谷の歴史はきっと今、出たがっているのだと思う。私がその一役を担わせていただいているならとても光栄なことだ。

●最後に、見つけ出した祭祀線の全てを合わせてみた。小さな集落でこんなに混み合った祭祀線は初めて見た。大谷は魔法の村だった。



（2023.10 月記）